
星空散歩

鱈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星空散歩

【Nコード】

N7245K

【作者名】

鱈

【あらすじ】

ツンデレ大学三年（女）とその扱い方を熟知している大学二年（男）カップルの日常。
彼女視点。

『先輩、先輩、ヤバいっすよ、今日めっちゃ星見えますよ!』

夜道、コンビニからの帰り道に一年下の後輩兼・彼氏からテンションマックスな電話がかかってきた。

「星?・・・あーそういえば今日すっごい星出てるね」

『すっごいですよ!俺なんか知らないけどテンション上がったちゃいました』

「うん、それは声聞けば分かるわ。かつわいいな」

『え、俺は先輩の方が可愛いと思、』

「うわ、鳥肌たつ」

『ええええそこは喜ぶべきところですよちょっと!』

俗に言うツンデレってやつですか、電話口からギャンギャン言われたけどそんな事はない。言われ慣れないから反応に困るだけ。あと今外歩いてるから寒い。

「ただでさえ寒いのにこれ以上私の体温を下げないで頂きたい」

『あれ、もしかして先輩、今外ですか』

もしかしなくともその通りだ。

「ん、コンビニ行った帰り」

人通りも車通りも少ない道、ましてや夜道ともなると靴の音とか服のすれる音とか袋のガサガサっていう音とかがダイレクトに響く。

ぶつちやけ一人で歩いてんのって若干だけど恐怖を伴うわけで。

だからこのタイミングでこいつから電話がかかってきて正直ホツとしてる。そんな事言ってるやんないけど。絶対調子乗るし。

『ふーん・・・プリン買いました？』

「買わねえよ」

えー！とか、耳元でキンキン響く声を上げないでほしい。元気で何よりだけどね。

『俺今めっちゃプリンの気分なんすけどー』

「そっか、私は今めっちゃアイスの気分なんだわ」

『うわ、この寒いのに？俺先輩が心配だわ・・・主に頭が』

「ぶん殴るぞ。コタツに入りながらアイス食べるっていうのが私の癒しなの。それが分からないようならお前に私の彼氏は務まらない」

『ちよ、言いすぎ！先輩すぐそういう事言う・・・あー、俺もコンビニ行ってくつかな・・・』

「お腹でもすいたの」

『いえ、ちよっと散歩がてら・・・あ、先輩もしかしてアパート近くのコンビニ行ってました？』

「ん？うん」

アパートから一直線の道なりにあるコンビニ。近場のはずなのに歩いて20分かかるといふ距離。

『じゃあ俺今からマツハで先輩迎えに行きます！』

「は？・・・え、でも・・・家、真逆じゃなかったっけ」

家まではあと10分も歩けば着くのに、こんな事で迎えに来させるのも気が引けるし・・・

『大丈夫っすよ、俺今先輩んちの前にいるし』

なんだと。

「・・・アパートの前にいんの？」

『いや、先輩の部屋の前』

どういうことなの。

この寒い中なにやってんだこいつは。

『チャイム鳴らしても出てこないから出掛けたのかと思って電話したんですよ。入れ違いだったんすねー』

まあ事前に連絡入れなかった俺のせいですけど。と笑いながら話してるけど、って事は軽く30分くらいはうちの前にいるんじゃないのか。えー、なにそれ寒いじゃん拷問じゃん。

「な、ん・・・寒いじゃん早く言いなよそれを！すぐ帰るから！」

人を待つのは全然いけるけど待たせるのは苦手。この寒いなか一人で待たせてるのかと思うと一気に焦りが出てきた。

『ええ？いいつすよ、俺が行きますから。先輩はゆっくり歩いてて下さ、』

「歩いてられるかバカ！待たせた上に迎えに来させる？ぶざけるなそんな事してたまるか。ちよ、そっから動いたらリンチね」

『・・・その強引さに惚れ直します・・・じゃあ俺こっから星でも見て待つてますね』

「おう！」

『先輩息切れしすぎっす・・・あー星マジ綺麗ヤバイ先輩上見て上』

「このバカちゃんが！上見ながら走ったら危ないでしょ！こける！星綺麗！」

『なんだかんだ言いながらちゃんと見てるじゃないすか。・・・あ、あと』

「なんじゃい」

「先輩、俺から電話かかってきて内心嬉しかったっすよね。心細かったでしょ」

そう言われた瞬間、一瞬足がもつれて軽くこけた。その衝撃で変な声が出た。

「・・・はっ、はああっ!??うおおっ、あっ、今一瞬こけたじゃんか危ないなあ!」

『え、俺のせい?先輩凶星つかれたからって慌てすぎっすよ』

電話からは軽快な笑い声が聞こえてくる。ああ、どうせ電話の向こうでこいつはだらしない顔をしているに違いないんだ。

そう思っつて何か言い返してやろうと口を開きかけた瞬間、笑い声が途切れた。

『まあ・・・俺も今心細いんで早く来てくれると嬉しいっす』

笑い声が途切れた後に聞こえたこの一言が私の足を加速させたのは言うまでもない。

(寒くない?大丈夫?)

(大丈夫っす。コタツで先輩抱えながらアイス食う想像して凌いでるんで)

(変な想像してんなよ)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7245k/>

星空散歩

2011年1月16日05時06分発行